

史跡等の指定等

《 史跡の新指定 》 12件

1 ^{しらかわじょうあと}白川城跡【福島県白河市】

白川城跡（^{からめじょうあと}搦目城跡とも言う）は、鎌倉時代後期以降、陸奥国^{しらかわのしょう}白河荘（現・福島県白河市及び西白河郡一帯）を拠点として繁栄した^{しらかわゆうき}白河結城氏の居城跡で、白河市中心部の東南方約2 km、^{あぶくまがわ}阿武隈川右岸の丘陵部に所在する。白河結城氏は、南北朝の動乱を経て、現在の福島県中通り一帯の軍事警察権を行使する^{けんだんしき}検断職に任じられ、室町時代には奥州南部から北関東まで勢力を拡大したが、16世紀代に入って以降次第に衰退し、天正18年（1590）の^{おううしおき}奥羽仕置により改易となった。平成22年度から同27年度にかけて、白河市教育委員会による城跡の発掘調査が実施され、東西約950 m、南北約550 mの範囲で多数の^{ひらばどるい}平場・土塁・堀等の遺構が良好に遺存することが判明した。城跡は、^{ごほんじょう}御本城^{やま}山地区を中心とする西側の遺構群と、^{かねつきどうやま}搦目山とその西側に派生する鐘撞堂山と呼ばれる2本の尾根上を中心に展開する東側の遺構群から成る。南北朝期の中心は御本城山地区であり、その後、搦目山地区に中心が移動したことや、16世紀後半頃に城跡全体で改修が行われたこと等が想定される。中世の陸奥南部地域における鎌倉武士の政治的発展と、その変容の歴史を知る上で貴重である。

2 ^{やまもといせき}山元遺跡【新潟県村上市】

新潟平野の北部に接する村上丘陵に所在する弥生時代の集落跡。遺跡は最高所で標高約40 m、周囲との比高36 m前後に位置する。日本海沿岸東北自動車道建設に伴い発見され、重要な遺跡であることが判明し現状保存の措置が執られた。

遺跡は比高約6 mの谷を隔てて居住域と墓域から成る。丘陵頂部の居住域には、幅2 m弱、深さ1 m、断面逆台形の溝（^{かんごう}環濠）がめぐり、その平坦面では^{ほったてばしらたても}掘立柱建物・^{たてあなたても}竪穴建物各1基を検出した。墓域では、^{どこうぼ}土坑墓17基、埋設土器4基等を確認し、完形のガラス小玉68点、小型鉄剣1点は副葬品と考えられる。土坑墓の近くから確認された筒形銅製品の破片は弥生時代の青銅器の最北事例であり、東海地域の集団との関係を示唆する。出土した土器は弥生時代後期の東北系弥生土器である^{てんのうやま}天王山式土器を主体とし、中期後葉の東北系・北陸系土器、後期の北陸系土器や続縄文土器もある。石器としては、^{せきぞく}打製石鏃・石

錐・楔形石器・磨製石斧・磨石類・砥石などがある。

弥生時代後期を最盛期とし、北陸文化圏と東北文化圏の接点に所在する環濠集落であり、現在のところ日本海側最北の高地性環濠集落である。居住域と墓域がセットで確認され、弥生時代の集落の様相を知る上で貴重な事例で、広範囲にわたる地域の集団と関係があった。東日本における弥生時代後期の社会及び文化のあり方を知る上で重要である。

3 飯田古墳群【長野県飯田市】

長野県南部、中央アルプスと伊那山脈及び南アルプスに挟まれた伊那谷と呼ばれる標高400m台の低位または中位の段丘上の南北約10km、東西約2.5kmの範囲に、5世紀後半から6世紀末にかけて継続して築造された古墳群。

古墳群は北から座光寺・上郷・松尾・竜丘・川路という5つのグループ（単位群）から成る。5世紀後半に突如として古墳の築造が始まり、古墳築造の背景には馬の文化を通じた大和政権との関わりが考えられる。本古墳群は、内陸交通において東西地域を結ぶ交通の結節点に位置しており、独自に周辺地域と交流があったことを示すとともに、大和政権による東国経営とも関わりがあったことを物語る。また、6世紀後葉の前方後円墳の消長及び畿内系横穴式石室受容の背景には、地域の再編成と大和政権の東国経営強化の過程をみることができる。

飯田古墳群は広範囲に及ぶが一体の古墳群として捉えることで、古墳時代中・後期にみられる大和政権による政治支配の状況や東国経営のあり方を知ることができるとともに、大和政権を構成する地域社会の動向を知る上でも重要である。

4 成相寺旧境内【京都府宮津市】

特別名勝天橋立を見下ろす成相山の中腹に位置する奈良時代に創建されたと考えられる山林寺院。『今昔物語集』、『梁塵秘抄』など多くの史料に記録がみえ、平安時代には山岳霊場として全国に知られる存在となり、その法灯を現在に伝える。また、雪舟「天橋立図」（国宝）や「成相寺参詣曼荼羅」には中世の成相寺の様子を描かれており、応保元年（1161）には後の天台座主覚忠が、貞和4年（1348）には本願寺の覚如が訪れるなど、丹後の名刹として、信仰を集めた。

山頂付近では奈良時代の遺物が出土するとともに、平安時代から室町時代の成

相寺の中心建物の可能性がある遺構が良好な状態で検出されている。また、それを中心に広い範囲で中世墓が展開することが確認され、現在の場所に伽藍が造られる以前は、山頂付近に伽藍が存在したことが判明した。

平安時代以降の日本を代表する山岳霊場であり、旧境内に伴う建物や中世墓群が良好な状態で保存されているなど、古代から中世にかけての山林寺院の空間利用や展開を知る上で重要である。

5 だいせんじきゅうけいだい 大山寺旧境内【鳥取県西伯郡大山町】

大山寺は山号を角磐山かくばんざんといい、中国山地最高峰、大山（弥山みせん、1,709m）の北面中腹に位置する山林寺院である。大山は、『出雲国風土記』に火神岳ひのかみのたけあるいは大神岳おおかみのたけとみえる古くからの信仰の山で、『撰集抄』（建長2年〈1250〉頃成立）は、8世紀後半の称徳天皇の頃、出雲国造俊方が地蔵菩薩としかたを大智明権現だいちみょうごんげんとして祀ったと伝える。平安時代後期の『新猿楽記』に修験の山とみえ、文献史料や発掘調査等の成果から、中世に最大規模となったことが知られる。近世には幕府から三千石の寺領が安堵され、西明院谷、南光院谷、中門院谷の三院谷の上に本坊である西楽院さいらくいんが支配する一山三院四十二坊の体制をとった。そして、牛馬の守護神や祖霊神と結びつき、広く民衆の信仰を集めた。明治維新で寺領を失った大山寺は、明治8年（1875）に寺号廃絶のうえ大智明権現社が大神山神社奥宮に定められた。寺号復活が認められたのは明治36年（1903）のことである。旧境内地には近世以前の建造物が残り、廃絶した子院（僧坊）にも石垣や土塁、それらを結ぶ参道が良好に遺存している。大山町教育委員会による総合調査の結果、我が国を代表する山林寺院のひとつであることが明確となった。

6 びんごこくふあと 備後国府跡【広島県府中市】

広島県南東部に位置する古代備後国の国府跡。『和名類聚抄』に「国府在」とみえる葦田郡あしだに属するため国府所在地と推定されており、昭和42年度以降の発掘調査によって考古学的裏づけが与えられた。ツジ地区では8世紀を中心にほぼ方一町の区画溝に囲まれた規模の大きい掘立柱建物群が建ち並び、区画溝を失った9世紀以降も大型建物が礎石建物そせきたてものに建て替えられ、10世紀末まで存続した。出土遺物には国府系瓦、腰帯具ようたい、陶硯とうけんや、須恵器・土師器きょうぜんの供膳具とともに、備後国内では他に例をみない量の国産施釉陶器や貿易陶磁器が12世紀まで連

綿と認められることから、ツジ地区には文書行政、給食、饗応などに用いられた備後国内で最も格式高い施設のひとつが存在したと考えられる。この他、礎石建物や苑池遺構を検出した金龍寺東地区きんりゅうじひがしや伝吉田寺をはじめ、官衙関連遺物かんがが出土した他の施設の多くでツジ地区と同範の平城宮式軒瓦が共有されるため、これらが広域で一体的に機能した国府の多様な構成要素として理解することが適当と考えられる。備後国府跡は、8世紀から12世紀にかけて、国府の成立から衰退までの変遷を知ることができ、古代の地方支配の実態を知る上で極めて重要である。

7 なるといたのこふんぐん 鳴門板野古墳群【徳島県鳴門市】

徳島県の北東部に位置する阿讃山脈あさん東南麓の、東西約7kmの範囲に展開する、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて営まれた墳丘墓及び古墳から成る古墳群。

弥生時代終末期には、積石による墳丘を構築し埋葬施設が東西方向であるなど、四国東部の特徴が認められる。古墳時代前期前半でも、前方後円墳の可能性のあるものもあるが基本的に円墳であり、埋葬施設の構造は弥生時代終末期からの影響を受け継ぐ。ところが、古墳時代前期後半になると前方後円墳となり、円筒埴輪を巡らすなど畿内の要素が顕著となる。

本古墳群は東部瀬戸内地域において、在地性の強い墳丘墓に始まり古墳出現過程を示す重要な事例である。古墳出現後は畿内地域からの影響を受けて変容していく様相から、当該時期における政治状況を知る上で重要である。

8 いよへんろみち 伊予遍路道 ぶつもくじみち 仏木寺道 よこみねじみち 横峰寺道

【愛媛県宇和島市・西条市】

遍路道は空海くわかい（諡号は弘法大師しごう こうぼうだいし）ゆかりの寺社を巡る全長1,400kmにも及ぶ霊場巡拝の道で、弘法大師の足跡を追体験する四国を一周する信仰の道である。指定にあたっては、阿波・土佐・伊予・讃岐の旧国名を冠し、それぞれの遍路道を呼称することとしている。伊予遍路道は延長500km以上あり、四国のなかで距離が一番長い。主要街道と重複するため、近代以降改変された箇所が多

いが、今回指定を行う箇所のようになお旧状をとどめている箇所がある。仏木寺道は第41番札所龍光寺りゅうこうじから第42番札所仏木寺に至る道の一部で、龍光寺から西に位置する尾根を横断し、谷部を進む部分約0.45kmに旧状をとどめる。横峰寺道は第59番札所国分寺（今治市）から第60番札所横峰寺に至る道で、二十丁の位置にある湯浪休憩所ゆうなみからの山道に旧状をとどめる。指定の対象となるのは五丁石のある付近までで、妙之谷川上流の谷川みよのたにがわに沿って進み、途中谷川を交差しながら、十一丁付近からは急峻な尾根を蛇行して登る道である。延長は約1.7kmを測り、道際に舟形や角柱形の丁石が立っている。これらの道はいずれも遺存状況が良好で、伊予における遍路道の実態を考える上で重要である。

9 土佐遍路道 青龍寺道

【高知県土佐市】

遍路道は空海しこう（諡号は弘法大師）ゆかりの寺社を巡る全長1,400kmにも及ぶ霊場巡拝の道で、弘法大師の足跡を追体験する四国を一周する信仰の道である。指定にあたっては、阿波・土佐・伊予・讃岐の旧国名を冠し、それぞれの遍路道を呼称することとしている。土佐遍路道は、阿波最後の札所第23番札所薬王寺と第24番札所最御崎寺ほつみさきじの間にある国境の突喰峠ししくいから、土佐最後の札所第39番延光寺えんこうじ（高知県宿毛市）から第40番札所観自在寺かんじざいじに向かう国境の松尾峠までの区間である。青龍寺道は第35番札所清瀧寺きよたきじから第36番札所青龍寺に至る道の一部で、途中、塚地坂つかじざかを越える部分に旧状をとどめている。峠の展望台からは宇佐の集落や宇佐湾、青龍寺の山並みを望むことができる。塚地坂を南に下って沢と合流する付近の岩塊には丁石としての文字が刻まれ、それに尊像が添え彫りされている。また、坂を下りきった宇佐側の沿道には磨崖仏が存在し、その一部には高岡郡域の中世期の石仏の特徴が見出される。青龍寺境内に慶長6年（1601）の接待供養塔が存在することをふまえると、遍路が一般化する時期以前から信仰の道として利用されていたことが推測される。遺存状況が良好であり、土佐における遍路道の実態を考える上で重要である。

10 船原古墳【福岡県古賀市】

現存長37.4mの6世紀末から7世紀初頭に属する横穴式石室を有する前方

後円墳である。横穴式石室の開口部の延長線上に密集する7基の土坑群には馬具・武具・武器・農工具・須恵器などの多量の遺物が埋納されるが、そのうち逆L字状の平面形を呈する1号土坑からは、馬冑ばちゆうをはじめとした朝鮮半島系の金銅製の馬具が豊富で、武具・武器とともに総数500点以上の遺物が一部は箱に収納して埋納されていたと考えられる。これら埋納土坑群から出土する土器は、古墳の周溝から出土する土器と接合することから、埋納土坑群は古墳に確実に伴うものであり、当該期の葬送儀礼の実態解明に繋がる可能性が高い。また当該期は、九州北部で前方後円墳が終焉する時期であることから前方後円墳の終焉状況を考える上でも重要であり、さらに、これまで空白地帯とされてきた宗像地域むなかたと福岡平野の中間地帯である当該地において、朝鮮半島や大和政権との関係性を有する前方後円墳が出現する意義も含め、この古墳は日本列島の当該期の政治状況や社会を考える上で極めて重要である。

11 ひがしみやういせき 東名遺跡【佐賀県佐賀市】

標高3mに立地する167基の集石遺構と8体分の埋葬人骨が集中する墓域から成る居住域、標高-0.5mから-2mの斜面部に広がる6か所の貝塚、さらには標高-2mから-3mの低湿地に築かれた155基の貯蔵穴群によって構成される、集落構造の全体が明らかな縄文時代早期末葉（約7,000年前、較正年代約8,000年前）の遺跡である。また、生活用具や食料残滓の遺存状態も極めて良好であることから、生活全般においてその内容の復元を可能にする遺跡であり、当該期では九州や西日本はもちろん日本列島全体を見渡しても類例がない。特に、貝塚から出土する骨角製品や貯蔵穴群から出土する700点を超える編み籠からは、当該期の造形的に優れた文様の実態を知ることができ、さらにこれらが国内では最古級に属することから、その製作技術を含め系譜についても注目されるところである。このように東名遺跡は、日本列島の縄文時代早期末葉の生活復元に再考を促す可能性が高い遺跡として重要である。

12 ながさきげんぱくいせき 長崎原爆遺跡【長崎県長崎市】

第二次世界大戦の末期である昭和20年（1945）8月9日に長崎に米軍により投下された原子爆弾（以下、原爆と略す）の被害を伝える遺跡である。原爆により、長崎市街は南北約5km、東西約2kmの範囲で地上の構造物は全壊ま

たは全焼し、同年中に約7万4千人が死亡したと言われている。原爆が炸裂した空中点の直下である爆心地は、昭和23年（1948）に初代平和宣言の舞台となり、その後爆心地公園となっており、原爆による被害を受けた地層が厚く堆積している。旧城山しろやま国民学校校舎は、鉄筋コンクリート造3階建てで、被爆による高熱火災の痕跡や原爆の衝撃波によるものと考えられる亀裂が見ついている。浦上うらかみ天主堂旧鐘楼は、大正14年（1925）完成の天主堂の塔の上にあったもので、被爆により天主堂北側の崖下の小川まで滑落し、現在まで位置を留めている。旧長崎医科大学門柱は、被爆により9cmずれ、傾いたまま立っている。山王神社二の鳥居は、爆心地方向の柱は爆風によって倒れたが、反対側の柱は、一本柱になったまま自立している。以上のように、長崎原爆遺跡は第二次世界大戦末期における原爆投下の歴史的事実、核兵器の被害や戦争の悲惨さを如実に伝える遺跡である。

《 名勝の新指定 》 2件

1 よなこばくふぐん 米子瀑布群【長野県須坂市】

長野県北東部を流れる千曲川水系の米子川よなこがわの上流、標高約1,600m付近に位置する。米子川上流部には比高100mほどの岩壁が約1kmにわたって続き、その岩壁及び周辺部を、権現滝ごんげんだき、不動滝ふどうだき等、十数条の滝が流れ落ちる。そのうち、常時水を落とす滝は10条ほどで、そのほかに、普段落水はないものの、多くの降水量がある時に流れ落ちる滝が数条存在する。

瀑布群の中心的な滝である権現滝は、約80mの落差で、直線的に落ちる。権現滝同様瀑布群の中心となる不動滝は、約85mの落差で、滝口から落ちた水は下部で霧状になり、夏至の前後にはこの霧状の部分に朝日が差し込み、虹が出る。米子瀑布群、とりわけ権現滝及び不動滝は、近世中期までは信仰の対象として捉えられ、近世後期以降はそこに景勝地としての評価を付加しつつ、現在までその姿を伝える。特徴的な地形及び地質によって独特の風致景観が形成されており、その観賞上の価値及び学術上の価値は高く、重要である。

2 ^{きゅうぬまづごようていえんち} 旧沼津御用邸苑地【静岡県沼津市】

沼津市の狩野川河口東方の島郷海岸に位置する。島郷海岸は、波静かで遠浅の海浜を成して白砂青松の風致景観を呈し、夏季は涼しい海風により避暑地、冬季は西方の牛臥山と防風林が季節風を遮って避寒地として保養の適地である。苑地は旧本邸・東附属邸・西附属邸の3つの区域から成る。旧本邸の区域は明治26年（1893）に竣工し、順次整備を重ねた。明治時代後半には皇室子弟の教育施設としての整備が進められ、明治36年（1903）には東附属邸を、明治38年（1905）には本邸西側に位置していた養育係、川村純義の別荘を西附属邸として整備し、大正11年（1922）には全容が整った。旧本邸建物は昭和20年（1945）の空襲によって焼失したが、クロマツ林と芝生地、そして、海浜に臨み、富士山・牛臥山等を望む苑地は今も風致景観をよく保持しており、昭和44年（1969）の御用邸廃止後は、沼津御用邸記念公園として沼津市が管理している。近代における近郊海浜保養地の優れた風致景観を伝える事例として重要である。

《 天然記念物の新指定 》 1件

1 ^{みやこじまぼら せっかい か だんきゅう} 宮古島保良の石灰華段丘【沖縄県宮古島市】

棚田のような形状を有するカルスト地形の一種で、保良宮土地区の崖下部に長さ約70m、幅約30mの範囲で分布する。宮古島の地質構造は、中新世から鮮新世の中国大陸東海岸からもたらされた砂や泥から成る島尻層群を基盤とし、その上位に約10～50mの琉球石灰岩（更新世の珊瑚礁）が不整合で覆っている。また島全体の地形は、東側が高く西～南西側に向かって緩やかに傾斜する。そのため、島の東端の保良地区では、海岸の崖中腹部の島尻層群と琉球石灰岩の境界部が露出する。地下浸透した降雨は、島尻層群の上面を伝って流下し、保良宮土地区の崖部で湧水として流れ出ている。湧水中の炭酸カルシウムは、水分の蒸発とともに石灰沈殿物（石灰華）として析出し、石灰華によって縁取られた小さな池が順次形成されて、崖下部に野外の石灰華段丘として国内最大規模で発達している。日本国内において、鍾乳洞以外の場所で石灰華段丘が形成されることは珍しく、学術上貴重である。

《特別史跡の追加指定》 2件

1 ふじわらきゅうせき 藤原宮跡【奈良県橿原市】

持統天皇8年（694）から和銅3年（710）まで営まれた古代の都城跡。藤原京跡の中心部に位置し、約1km四方の区画内に内裏・大極殿、役所群が建てられた。北端部で条件の整った部分を追加指定する。

2 いわせせんづかこふんぐん 岩橋千塚古墳群【和歌山県和歌山市】

和歌山平野の東側に所在する5世紀初頭から7世紀後半にかけて築造された約850基にも及ぶ、日本有数の大規模な群集墳。古墳時代後期前半に築造された墳長約70mの大谷山22号墳と古墳時代後期中頃の墳長88mの天王塚古墳を追加指定する。

《史跡の追加指定及び名称変更》 6件

1 とうだいじりょうよこえのしょういせき 東大寺領横江荘遺跡【石川県白山市・金沢市】

↑

（旧名称）

とうだいじりょうよこえのしょういせき
東大寺領横江荘遺跡

しょうけあと
荘家跡

かみあらいせき
上荒屋遺跡

平安時代前期、東大寺の財政を支えた荘園の一つとして経営されたもので、管理施設である荘家跡と上荒屋遺跡から成る。今回、発掘調査で見つかった寺院的施設、倉庫群等を面的に追加指定するとともに、名称を東大寺領横江荘遺跡と変更する。

2 くつかわこふんぐん 久津川古墳群

くつかわくるまづかこふん
久津川車塚古墳

まるづかこふん
丸塚古墳

ばしょうづかこふん
芭蕉塚古墳

くせしょうがっこうこふん
久世小学校古墳

【京都府城陽市】



(旧名称)

くつかわくるまづか まるづかこふん
久津川車塚・丸塚古墳

久津川車塚古墳は古墳時代中期の総長272mの前方後円墳、丸塚古墳は総長104mの帆立貝形前方後円墳。当時の政治や社会の動向を知る上で重要であることから史跡に指定された。今回、芭蕉塚古墳と久世小学校古墳を追加指定し、4基を総称して久津川古墳群に名称変更する。

3 ふるいちこふんぐん 古市古墳群

こむろやまこふん
古室山古墳

せきめんやまこふん
赤面山古墳

おおとりづかこふん
大鳥塚古墳

すけたやまこふん
助太山古墳

なべづかこふん
鍋塚古墳

しろやまこふん
城山古墳

みねがづかこふん
峯ヶ塚古墳

はかやまこふん
墓山古墳

のなかこふん
野中古墳

おうじんてんのうりょうこふんがいごうがいてい
応神天皇陵古墳外濠外堤

はちづかこふん
鉢塚古墳

やまこふん
はざみ山古墳

あおやまこふん
青山古墳

ぼんしよやまこふん
蕃所山古墳

いなりづかこふん
稻荷塚古墳

ひがしやまこふん
東山古墳

わりづかこふん
割塚古墳

からとやまこふん
唐櫃山古墳

まつかわづかこふん
松川塚古墳

じょうがんじやまこふん
浄元寺山古墳

【大阪府藤井寺市・羽曳野市】



(旧名称)

ふるいちこふんぐん
古市古墳群

こむろやまこふん
古室山古墳

せきめんやまこふん
赤面山古墳

おおとりづかこふん
大鳥塚古墳

すけたやまこふん
助太山古墳

なべづかこふん
鍋塚古墳

しろやまこふん
城山古墳

みねがづかこふん
峯ヶ塚古墳

はかやまこふん
墓山古墳

のなかこふん
野中古墳

おうじんてんのうりょうこふんがいごうがいてい
応神天皇陵古墳外濠外堤

はちづかこふん
鉢塚古墳

はざみやまこふん
はざみ山古墳

あおやまこふん
青山古墳

ばんじやまこふん
蕃所山古墳

いなりづかこふん
稻荷塚古墳

ひがしやまこふん
東山古墳

わりづかこふん
割塚古墳

からとやまこふん
唐櫃山古墳

まつかわづかこふん
松川塚古墳

4世紀後半～6世紀中葉にかけて形成された、応神天皇陵古墳を頂点とする列島を代表する古墳群で19基が史跡に指定されている。墓山古墳に付随する、5世紀中頃の大型の方墳である浄元寺山古墳のうち、条件の整った範囲を追加指定する。

4 あすかきゅうせき 飛鳥宮跡【奈良県高市郡明日香村】

↑

(旧名称)

でん あす かいたぶきのみやあと
伝飛鳥板蓋宮跡

じよめい 舒明天皇の あす か おかもとのみや 飛鳥岡本宮，こうぎよく 皇極天皇の あす かいたぶきのみや 飛鳥板蓋宮，さいめい 齐明天皇の のちのあす か おかもとのみや 後飛鳥岡本宮，てんむ 天武・じとう 持統天皇の あすかきよみはらのみや 飛鳥浄御原宮が継続的に営まれた遺跡である。今回，追加指定を行うとともに，長年の発掘調査成果等に基づき，名称を伝飛鳥板蓋宮跡から飛鳥宮跡に変更する。

5 あ わ へん ろ みち 阿波遍路道

しやうさんじみち
焼山寺道

いちのみやみち
一宮道

おんざんじみち
恩山寺道

たつえじみち
立江寺道

かくりんじみち
鶴林寺道

たいりゆうじみち
太龍寺道

みち
かも道

みち
いわや道

びやうどうじみち
平等寺道

【徳島県名西郡神山町・小松島市・勝浦郡勝浦町・阿南市】

↑

(旧名称)

あ わ へん ろ みち
阿波遍路道

かくりんじみち
鶴林寺道

たいりゆうじみち
太龍寺道

みち
かも道

みち
いわや道

びやうどうじみち
平等寺道

空海ゆかりの寺社を巡る全長1,400kmにも及ぶ霊場巡拝の道の一部。
あわのくに阿波国分を阿波遍路道と呼び，今回，焼山寺道，一宮道，恩山寺道，立江寺道の4区間の遺存状況の良好な道筋を追加指定し，名称を変更する。

6 三井三池炭鉱跡

みやのはらこうあと
宮原坑跡

まんだこうあと
万田坑跡

せんようてつどうじきあと
専用鉄道敷跡

きゅうながさきぜいかん み い げ ぜいかん し しょ
旧長崎税関三池税関支署

【福岡県大牟田市・熊本県荒尾市】

↑

(旧名称)

みつ い み い け た ん こ う あ と
三井三池炭鉱跡

みやのはらこうあと
宮原坑跡

まんだこうあと
万田坑跡

せんようてつどうじきあと
専用鉄道敷跡

明治時代、当初官営、次いで三井が経営した、我が国を代表する炭鉱遺跡である。宮原・万田の両坑跡と、石炭や物資等を運搬した専用鉄道敷から成る。今回、専用鉄道敷のうち条件の整った部分と三池港に隣接する旧長崎税関三池税関支署を追加指定し、名称変更する。

《史跡の追加指定》 16件

1 是川石器時代遺跡【青森県八戸市】

縄文時代晩期の低湿地遺跡で、大量の漆器・木製品・彩色土器・土偶などが発掘されて、東北地方における縄文晩期の豊かな生活様式を明らかにした。東北地方の縄文文化を代表する遺跡として極めて重要。中心部において、条件が整った部分を追加指定する。

2 鳥海山【山形県飽海郡遊佐町、秋田県由利本荘市・にかほ市】

古代からの信仰の山で、古代には国家の守護神として、近世以降は農業神として信仰された。今回、わらびおかしゅげん 蕨岡修験の学頭としてしゅうと 蕨岡衆徒を率いた寺院であるりゅうとう 龍頭寺の境内地と、ふくらぐち 吹浦口登拝道及びたきざわぐち 滝沢口登拝道の一部を追加指定する。

3 おんなぼり 女堀【群馬県伊勢崎市・前橋市】

12世紀中葉に赤城山麓を東西に開削された未完成の用水路。平安時代末期の東国領主層による大規模な開発状況を示す遺跡。全体の長さは約13km、幅15～30m、深さ3～4m。掘削した土を積んだ土塁も部分的に残る。条件の整った部分を追加指定する。

4 しんぶくじかいづか 真福寺貝塚【埼玉県さいたま市】

大宮台地では数少ない縄文時代後晩期の貝塚と低湿地を伴う東西160m、南北180mの馬蹄形ばていけいを呈する大規模な盛り土遺構状の集落跡であり、学史的にも極めて有名である。条件の整った部分を追加指定する。

5 おだわらじょうあと 小田原城跡【神奈川県小田原市】

いせそうずい ほうじょうそうん 伊勢宗瑞（北条早雲）が攻略し、おだわらほうじょう 小田原北条氏代々の手で関東支配の拠点として整備・拡張がなされた城跡。近世には有力譜代大名が配された。今回、既指定地であるこみねおかねの だいおほりきりひがしぼり小峯御鐘ノ台大堀切東堀の西に隣接する箇所等を追加指定する。

6 のちせやまじょうあと 後瀬山城跡【福井県小浜市】

若狭国主、武田氏により築城され、慶長5年（1600）に若狭に入部したきょうごく京極高次たかつぐにより廃城とされるまで若狭国主の居城として機能した城館跡で、山城跡と居館跡が良好な状態で保存されている。山麓部の居館跡を追加指定する。

7 ごんがかんがいせき 恒川官衙遺跡【長野県飯田市】

7世紀後半～10世紀前半にかけて営まれたいなぐうけ伊那郡家（郡衙）と考えられている遺跡で、古代国家の地域支配の実態を知る上で重要であることから史跡に指定された。条件の整った箇所を追加指定する。

8 なかせんどう 中山道

【長野県小県郡長和町・木曾郡南木曾町、岐阜県中津川市・可児郡御嵩町】

江戸時代の五街道の一つで、江戸日本橋から草津宿で東海道に合流するまでの街道。江戸日本橋から49番目の宿場御嶽宿みたけの東方山間地域に残る、遺存状況良好な道筋を追加指定する。

9 おうみこくふあと 近江国府跡

こくちょうあと
国庁跡

そうやまいせき
惣山遺跡

あおえいせき
青江遺跡

ちゅうろいせき
中路遺跡

【滋賀県大津市】

古代近江国の政治・経済の中心をなす遺跡。国庁跡，惣山遺跡，青江遺跡，中路遺跡から成る。発掘調査により掘立柱建物や溝を検出した国庁跡の指定範囲の西側に隣接する地点を追加指定する。

10 しものごういせき 下之郷遺跡【滋賀県守山市】

東西約670m，南北約460mで面積約25haにもおよぶ，弥生時代中期の大規模な環濠集落。木製品など豊富な遺物が出土し，弥生時代の政治動向や社会，人々の生活を考える上で重要。条件の整った箇所を追加指定する。

11 うじがわたいこうつみあと 宇治川太閤堤跡【京都府宇治市】

京都盆地東部の宇治川の右岸に立地する堤防の遺跡。豊臣秀吉により，文禄3年（1594）以降に宇治川・淀川等の付け替えなど大規模な治水工事を行った際に築かれた。護岸と水流を調節する水制などが良好に残り，当時の土木技術の高さを知る上で重要。条件の整った部分を追加指定する。

12 ながおかきゅうせき 長岡宮跡【京都府向日市】

延暦3年（784）から延暦13年（794）までの間，桓武天皇が桂川右岸沿いに造営した長岡京の中枢部にあたる宮殿跡で，大極殿，朝堂院等が指定されている。今回，内裏築地回廊の一角等を追加指定する。

13 かわちでらはいじあと 河内寺麿寺跡【大阪府東大阪市】

生駒山地の西麓部標高約27mの緩傾斜地上に立地する7世紀中頃に創建され，14世紀に廃絶した四天王寺式伽藍配置をとる寺院跡。講堂の北方で確認された礎石建物を追加指定する。

14 さくらいちやうすやまこふん 桜井茶臼山古墳【奈良県桜井市】

大和盆地南部に所在する墳長208mの古墳時代前期の前方後円墳。昭和24年(1949)、25年(1950)の橿原考古学研究所による発掘調査で、後円部の竪穴式石室から大量の銅鏡、へきぎよく碧玉製品、鉄製武器など豊富な副葬品が出土。大和政権の成立を考える上で極めて重要。条件の整った部分を追加指定する。

15 つやざきこふんぐん 津屋崎古墳群【福岡県福津市】

むなかた宗像地域における首長墓群で、沖ノ島にも近接した地理的な位置関係から、沖ノ島祭祀に関わりを持つむなかたのきみ胸形君一族の墓域である可能性が高く、北部九州を代表する首長墓群として重要である。条件の整った部分を追加指定する。

16 じょうやまよこあなぐん 城山横穴群【福岡県田川郡福智町】

おんががわ遠賀川流域の独立丘陵上に6世紀前半から7世紀後半までに及ぶ222基の横穴によって構成される大規模な横穴墓群。その規模や密集度から、我が国を代表する横穴群として貴重な事例。条件の整った部分を追加指定する。

《名勝の追加指定及び名称変更》 2件

1 みち ふうけいち おくのほそ道の風景地

そうかまつばら
草加松原

ふち じうんじけいだい
ガンマンガ淵(慈雲寺境内)

はちまんぐう なすじんじゃけいだい
八幡宮(那須神社境内)

せつしやうせき
殺生石

ゆぎやうやなぎ し みずなが やなぎ
遊行柳(清水流るゝの柳)

くろづか いわや
黒塚の岩屋

たけくま まつ
武隈の松

おか てんじん みやしろ
つゝじが岡及び天神の御社

き した やくしどう
木の下及び薬師堂

つぼのいしぶみ いし
壺碑(つぼの石ぶみ)

おきのい
興井

すえ まつやま
末の松山

まがき しま
籬が島

きんけいさん
金鷄山

たかだち
高館

さくらやま
さくら山

ほんあいかい
本合海

みさき だいしぎき
三崎（大師崎）

きさかた しおこし
象潟及び汐越

おや
親しらず

ありそうみ
有磯海

なただらけいだい きせき
那谷寺境内（奇石）

どうみょう ふち やまなか いでゆ
道明が淵（山中の温泉）

けいのみょうじん け ひ じんぐうけいだい
けいの明神（氣比神宮境内）

おおがきふなまちかわみなど
大垣船町川湊

【福井県敦賀市，埼玉県草加市，栃木県日光市・大田原市・那須郡那須町，福島県二本松市，宮城県岩沼市・仙台市・多賀城市・塩竈市，岩手県西磐井郡平泉町，山形県新庄市・飽海郡遊佐町，秋田県にかほ市，新潟県糸魚川市，富山県高岡市，石川県小松市・加賀市，岐阜県大垣市】

↑

（旧名称）

おくのほそ道の風景地

そうかまつばら
草加松原

ふち じゅうん じけいだい
ガンマンガ淵（慈雲寺境内）

はちまんぐう なすじんじゃけいだい
八幡宮（那須神社境内）

せつしょうせき
殺生石

ゆぎょうやなぎ しみずなが やなぎ
遊行柳（清水流るゝの柳）

くろづか いわや
黒塚の岩屋

たけくま まつ
武隈の松

おか てんじん みやしろ
つゝじが岡及び天神の御社

き した やくしどう
木の下及び薬師堂

つほのいしぶみ いし
壺碑（つぼの石ぶみ）

おきのい
興井

すえ まつやま
末の松山

まがき しま
籬が島

きんけいさん
金鶏山

たかだち
高館

さくらやま
さくら山

ほんあいかい
本合海

みさき だいしざき
三崎（大師崎）

まさかた しおこし
象潟及び汐越

おや
親しらず

ありそうみ
有磯海

なたでらけいだい きせき
那谷寺境内（奇石）

どうみょう ふち やまなか いでゆ
道明が淵（山中の温泉）

おおがきふなまちかわみなと
大垣船町川湊

東北・北陸地方を旅した^{まつおばしろう}松尾芭蕉が、自らの俳句を織り交ぜて文学として編んだ『おくのほそ道』に登場する一群の風致景観。芭蕉が仲秋の名月の前日に敦賀に到着して参拝した「^{みょうじん け ひ じんぐうけいだい}けいの明神（氣比神宮境内）」を追加指定し、名称変更する。

2 ^{ひらどりょうじかた はつきしょう ひらどはっけい}平戸領地方八奇勝（平戸八景）

^{たかいわ}
高巖

^{せんりゅうすい}
潜龍水

^{いしばし}
石橋

^{だいひかん}
大悲観

^{いわやぐら}
巖屋宮

^{ふくいしやま}
福石山

^{しおのめ}
潮之目

【長崎県佐世保市】

↑

（旧名称）

^{ひらどりょうじかた はつきしょう ひらどはっけい}
平戸領地方八奇勝（平戸八景）

せんりゅうすい
潜龍水

だいひかん
大悲観

ふくいしやま
福石山

平戸藩第10代藩主松浦熙^{まつらひろむ}は藩内に所在する8か所の風景地を選定し、嘉永元年（1848）に『平戸領地方八奇勝図』を出版した。八奇勝のうち、既に指定されている「潜龍水」、「大悲観」、「福石山」の3か所に加え、「高巖」、「石橋」、「巖屋宮」、「潮之目」の4か所を追加指定し、名称変更する。

《名勝の追加選定》 1件

1 川平湾及び於茂登岳【沖縄県石垣市】

川平湾は琉球王府への貢納船の風待ちの場所であったほか、沖縄県最高峰の於茂登岳には八重山諸島の創生神話が伝わる。隆起珊瑚礁の島嶼^{とうしょ}から成る海浜と亜熱帯樹林が覆う山岳が一体を成す美しい風致景観。条件の整った川平小島の一部と於茂登岳北側山裾一帯及び南側山裾の一部を追加指定する。